

図画工作科学学習指導案

指導者 川角 愛子

1 学 年 第1学年 20名

2 場 所 奥田元宋・小由女美術館 メインエントランス横の庭

3 題材名 びじゅつかんへようこそ 【領域】「つくる」「みる」

4 題材について

題材観

本題材は、学習指導要領に示された次の目標と指導内容を受けて設定した。

	第1学年及び第2学年の目標	第1学年及び第2学年の指導内容
A 表現	(2) 造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。	(2) ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。 (2) イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつかって楽しんだりしながら表すこと。 (2) ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を動かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。
B 鑑賞	(3) 身の回りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取るようにする。	(1) ア 自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。
(共通事項)	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。 イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	

本題材の中心的な活動は、透明容器という身の回りにある材料を生かして作品をつくり、それを置いたり、つるしたりして木の周りを飾るという活動である。奥田元宋・小由女美術館メインエントランス横の芝生に1本のシンボルツリーが立って来館者を迎えている。その木の周りにネットを張り、そこに自分の作品を思い思いに飾りつけたり、さらに芝生という広い空間にまで発想を広げたりしながら作品を飾ろうと計画している。児童はこれまでの美術館見学で、このシンボルツリーを目にしており、美術館に来る人々に見てもらおうと意欲的に作品を制作するであろう。また、透明容器は身近なものであり、集めやすく、軽くて大きさや形もさまざまなので、形の違う容器を組み合わせで新しい形を作り出すことができる。さらに「切る・ねじる・丸める」など形を変えたり、中に入れるものや貼り付けるものを考え、光を通す色の美しさを表現したりして、造形活動を楽しむことができる。児童は、美術館での授業ということで学校とは違う新鮮な感覚で造形活動を進めることができるであろう。そして、地域の美術館に興味・関心を持ち、親しみをいっそう高めると考える。

本題材でつけたい力は次の通りである。

- ・透明容器を使ってつくりたいものをつくり、飾ることを楽しむ態度 【感じる力】
- ・透明な容器のよさを生かしながら、自分のつくりたいものを考える力 【考える力】
- ・自分の思いをもとに、透明な容器を使ってつくる力 【つくる力】
- ・自分や友だちの表現方法のよいところを見つける力 【みる力】

児童の実態

本学級の児童は、1学期末に行なったアンケートでは、以下のような結果であった。

アンケート項目(20人)	すき	まあまあ すき	あまりす きではな い	きらい
ずがこうさくはすきですか。	18	0	0	2
ずがこうさくのじかんはわくわくしますか。	16	1	0	3
いいかんがえがうかびますか。	16	3	0	1
ともだちのさくひんをみることはすきですか。	15	3	0	2
ずがこうさくのなかでなにがすきですか。(複数 回答)	絵20 粘土15 工作16 造形遊び9 鑑賞10			

90%の児童が「図画工作が好き」と答え、どの題材も楽しく活動している。全体的に「絵」や「粘土・工作」が好きな児童が多い。

1学期は「おってたててみんなのまち」で、紙を折って立てた形から想像し、切ったり紙をたしたりして表したいものをつくった。最後に一人一人の作品を持ち寄り、友だちと相談しながら、大きな白い紙の上に道路や海などを思い思いにかきこみ、「みんなのまち」をつくった。つくりながら、友だちの作品のよいところや面白いところについて話し合うことができ、さらに想像力をふくらませることができた。大きな紙を教室の真ん中に広げて発想をふくらませようとしたが、空間に限りがあり新しい発想の広がりには限界があった。「クッキーやさんになろう」では、紙粘土に絵の具を混ぜて自分の色粘土をつくり、食べたくなるようなクッキーを楽しんでつくった。そして、自分が用意した容器に工夫して並べることができ、活動を楽しみながら、色や形のイメージをもふくらませることができた。しかし粘土に絵の具を練りこむ方法を実演して伝えたが、なかなか混ぜることができず表面だけ色の付いた色粘土になったものもあった。しっかり混ぜ込むという根気や指先の巧緻性に課題がみられた。

指導観

指導に当たっては、次のような手立てを講じていきたい。

【感じる力を育てる手立て】

透明容器を「切る・ねじる・丸める」などさせたり、中に物を入れて色を出したりして、材料のよさを手や体全体の感覚を働かせて感じながら楽しませたい。

【考える力を育てる手立て】

透明容器に色水を入れて並べたり、積み重ねたりしてみる活動を通して、透明容器のよさに気づかせ、児童が発見した表現方法を提示し、各自の作品制作の参考にさせたい。そして、透明容器をどのように組み合わせたらよいか、中にどんなものを入れたらよいか、どんなかざり方があるのかなどを伝え合い発想が広がるようにさせたい。また、「シンボルツリーをどのように飾るか」考え、ワクワクカードに絵を描き、発想を広げ庭全体を飾るよう考えさせていきたい。

【つくる力を育てる手立て】

さまざまな形の透明容器を新しい形にしていく方法を考え実演させ、どうすれば表現したいものができるのか思いつかない児童にも理解させたい。色についても透明感をいかし、どんなものを入れたり貼ったりしたら自分の思いを形にすることができるか数多く試させたい。また、材料や用具の扱いが難しい児童に対しては、やわらかい透明容器を用意したり、色をつけることの楽しさに気づかせたりしながら、表現しやすいように提示していきたい。みんなで一つのを飾るため、教師の声かけにより話し合いをしっかりとさせたい。

【みる力を育てる手立て】

ルックルックタイムを設定してじっくり鑑賞し、児童に自分や友だちの作品のよさを見付けさせたい。共同作品となるので離れた位置から全体をみるという見方もさせたい。また、作品制作をふりかえる時間を設定し、出来上がるまでの過程を評価したい。

5 題材の目標

- 透明容器を使ってつくりたいものをつくったり,飾ったりすることを楽しむ。
- 透明容器のよさを生かしながら,自分のつくりたいものを考える。
- 自分の思いをもとに,透明容器を使ってつくりたいものをつくったり,飾ったりする。
- 自分や友だちの表現方法のよいところを見付ける。

6 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度 (感じる力)	イ 発想や構想の能力 (考える力)	ウ 創造的な技能 (つくる力)	エ 鑑賞の能力 (みる力)
いろいろな透明容器使って,つくったり飾ったりすることを楽しんでいる。	材料のよさを生かしながら,つくりたいものを考えている。	透明容器を使って色や形を工夫してつくったり,飾ったりしている。	自分や友だちの作品のよいところに気付いている。

7 指導と評価の計画(全6時間)

次	学習内容 (時数)	評 価					
		ア	イ	ウ	エ	評価規準	評価方法
一	○さまざまな透明な容器を変形させる面白さを楽しむ。 (1)					・いろいろな透明な容器を変形させて楽しんでいる。	行動観察
二	○美術館見学に行き木の周りを飾るためのものを考える。 (1)					・木の周りにどんなものをつくったらよいか考えている。	ワクワクカード
三	○透明な容器を使って,シンボルツリーの飾りをつくる。 (2)		○			・透明容器を使って,色や形を工夫して作っている。 ・材料のよさを生かしながら,つくりたいものを考えている。	行動観察 作品
四	○木の周りを飾る。 (1) 【本時】				○	・透明容器を使って,色や形を工夫して作ったり,飾ったりしている。 ・自分や友だちの作品のよいところに気付いている。	行動観察 作品 発言
五	○作品制作をふりかえる。 (1)					・写真を見ながら活動を思い出し,ふりかえりカードを書いている。	ふりかえりカード 発言

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- 木の周りの気に入った場所に自分の作品を置いて，楽しく飾る。

(2) 本時の評価規準

透明容器を使って色や形を工夫して作ったり，飾ったりしている。

【創造的な技能】

- 木の周りを飾った自分や友だちの作品のよさに気付いている。

【鑑賞の能力】

(3) 準備物

〔指導者〕透明容器，色を出す材料，ステープラー，セロハンテープ，網，ポールなど

〔児童〕透明容器の作品，はさみなど

(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意点(支援を要する児童への手立て)	評価規準 (評価方法)
1 前時の想起をする。		
2 本時の課題を確認する。		
じぶんたちのさくひんでシンボルツリーのまわりをかざろう。		
3 ツリーを飾る方法を考える。 (飾り方) ・ 引っ掛ける ・ つるす ・ 積む ・ 置く	・ 児童がいろいろな飾り方を見つけことができるように，それぞれの考えを交流させる。 【児童の意欲を高める言葉がけ】 「色の組み合わせがおもしろいね。」 「光を通してきらきらしているね。」 「たくさん飾ったね。」 「いい方法を思いついたね。」 「この〇〇がいいね。」 「どんどん変身してきたね。」 「どんどん楽しくなってきたよ。」 「美術館に来る人がよろこんでくれるよ。」	
4 自分の作品を自分の方法で飾る。 何をどのようにどこに飾るか考える。 もっとあったらよいものを考えてつくる。 作品の周りを飾る。	・ 飾り方が小さくならないように，少し離れた位置から，全体的に作品を見るように声をかける。 どのように飾るのか思い起こさせるために，事前に描いたワクワクカードを見せる。	・ 透明容器を使って色や形を工夫して作ったり，飾ったりしている。 【創造的な技能】 (行動観察・作品)
〔ルックルックタイム〕	・ 全員で作品を鑑賞する時間をとる。	
5 ふり返りをする。	・ 自分や友だちの作品のよさなど感想を交流する。 ・ 挙手によるふり返りをさせる。	・ 木の周りを飾った自分や友だちの作品のよさに気付いている。 【鑑賞の能力】 (発言)
6 次時の活動を知る。	・ 作品制作をふりかえることを伝える。	